

各位

本店所在地 東京都千代田区麹町 2 丁目 4 番地
会社名 そーせいグループ株式会社
(コード番号 4565 東証マザーズ)
代表者 代表執行役社長 CEO ピーター・ベインズ
問い合わせ先 コーポレートコミュニケーション部 伴瀬晴美
電話番号 03-5210-3290 (代表)

子会社 Heptares 社と JITSUBO 社、重篤な消化管障害を適用としたペプチド医薬品開発にむけ、 新規 GPCR をターゲットとした研究開発を開始

当社子会社 Heptares Therapeutics (ヘプタレス・セラピューティクス、以下、「Heptares 社」と JITSUBO 株式会社 (以下、「JITSUBO 社」) は、重篤な消化管障害に関連があるとされている G タンパク質共役受容体 (GPCR) をターゲットとした新規ペプチド治療薬の開発にむけてコラボレーションを開始いたしましたので、お知らせいたします。これは当社子会社間で初となる戦略的なコラボレーションであり、両社が有する相互補完的な技術を活用することで、アンメットメディカルニーズのある疾患に対する画期的な治療薬を継続的に創出していくことを目的としています。

この共同研究において、JITSUBO 社は両社が選択した GPCR ターゲットに対するペプチド医薬品の創薬に向けて、Peptune™技術及び Molecular Hiving™技術に基づくペプチド設計及び製造技術を応用します。Heptares 社は、選択された GPCR の 3 次元構造について、独自の StaR®技術プラットフォームに基づく高度な見識を有しています。ターゲットとなる GPCR は消化管障害において重要な役割を果たすものであり、現在、既に研究段階にあります。Heptares 社は、この共同研究から生み出された全てのペプチド医薬品候補薬の開発及び商業化を担い、予め両社で合意したマイルストーン達成に応じて JITSUBO 社に所定のマイルストーンを支払います。更に Heptares 社は、将来商品化された製品について、売上高に応じたロイヤリティも支払うこととなります。本コラボレーションについての詳細は非開示とさせていただきます。

JITSUBO 社の代表取締役 CEO、共同創立者である河野悠介氏は次のように述べています。「Heptares 社の StaR®タンパクは、JITSUBO 社独自のペプチド設計・製造技術を応用できる理想的なモデルです。同社とこのような形で初めて共同研究を行うことを嬉しく思います。この研究により、重要なタンパク質受容体をターゲットとした革新的で高い選択性をもつペプチド医薬品の創造に向け、両社の技術プラットフォームを結集した能力を実証することができると思います。」

Heptares 社のチーフ・サイエンティフィック・オフィサーであり当社チーフ・サイエンティフィック・オフィサーである Fiona Marshall 氏は次のように述べています。「疾患における役割が生物学的及び臨床的に

十分に検証されている GPCR は多数存在しており、これらの GPCR の機能はペプチドによって調節することができます。Heptares 社と JITSUBO 社が相互補完的な技術プラットフォームを持ち寄り実施するこのたびの共同研究は、Heptares 社にとって革新的な低分子治療薬及び生物学的製剤から成る自社パイプラインを拡大させる絶好の機会となります。このたびの共同研究において、Heptares 社が自社で開発を進めることが可能なペプチド医薬品候補が創出されることを強く願っております。」

当社代表執行役社長 CEO、Peter Bains は次のように付け加えます。「当社はここ数年に渡り、M&A により強固な技術基盤を築き、当社独自のパイプラインに新薬候補を継続的に加えるためにこれらの技術を活用することに力を注いでまいりました。このたびの Heptares 社と JITSUBO 社のコラボレーションが実現し、当社グループ間で画期的な技術プラットフォームを相互補完することができると証明できたことを大変喜ばしく感じています。これから先もこの取り組みに期待しています。」

尚、本件による業績への影響はございません。

<ご参考>

Heptares 社について

Heptares 社は、広範囲のヒト疾患に関連する 375 個の受容体のスーパーファミリーである G タンパク質共役受容体 (GPCR) を標的とした創薬を行う医薬品開発企業です。同社独自の構造ベースドラッグデザイン技術を利用することにより、臨床的な有用性は証明されているものの、これまで創薬が困難であった GPCR を標的とした医薬品の創出が可能となります。このアプローチを使用して、同社はアルツハイマー病、統合失調症、がん免疫療法、片頭痛、依存症、代謝疾患等の治療法を革新する可能性を有する、画期的なパイプラインを構築しています。

Heptares 社は新規開発候補品や技術提供について、既に Allergan 社、AstraZeneca 社、Kymab 社、MedImmune 社、MorphoSys 社、Pfizer 社、Teva 社等をはじめとする大手製薬会社やバイオテクノロジー企業と提携しています。

Heptares 社はそせいグループの 100%子会社です。詳細については、www.heptares.com と www.osei.com をご覧ください。

JITSUBO 株式会社について

JITSUBO は、「優れたペプチド医薬品の提供を通じて幸福社会の実現に貢献する」ことを経営理念に掲げ、革新的な合成・分離精製技術を基盤としているペプチド医薬品研究開発企業です。高品質で経済性に優れたペプチド合成技術 (Molecular Hiving™) 並びに従来にないペプチド誘導体の合成とライブラリー化を可能にするペプチド構造最適化技術 (Peptune™) という当社が開発した独自技術を活かして世界を舞台に幅広く事業展開していくことにより、アンメットメディカルニーズの充足と持続可能な医療への貢献を目指しています。

2014 年 12 月、当社はそせいグループ株式会社の傘下に加わり、強固な財務基盤と豊富な人材ネットワークを活用して、患者、医療従事者にとって優れた選択肢となるペプチド医薬品の研究開発を進めています

詳細については <http://www.jitsubo.com/jp/index.html> をご覧ください。

そーせいグループ株式会社について

そーせいグループはグローバルに医薬品開発に取り組む日本発のバイオ医薬品企業です。そーせいグループのビジネスモデルの根幹にあるのは、新規・差別化可能な開発品および基盤技術の探索、それらの非臨床・臨床開発の支援、開発・販売提携等を通じて世界中の患者さんに新たな医薬品を届けることです。

詳細については、 www.osei.com をご覧ください。

ご注意: この文書は、当社の新株式発行及び自己株式の処分並びに株式売出しに関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。投資を行う際は、必ず当社が作成する新株式発行及び自己株式処分並びに株式売出届出目論見書及び訂正事項分（作成された場合）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。